

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200397
法人名	株式会社ウェブインテリジェンス
事業所名	グループホームかたかごの郷
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町134-5
自己評価作成日	令和3年2月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル 1 階		
訪問調査日	令和3年3月18日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全体が入居者様の立場になって考える事、気付きや思いやりを持つ事など、職員一人一人の向上に取り組んでいます。 入居者様、ご家族様が安心して、ご自身の自宅と変わらないよう生活を送って頂ける様、職員同士の情報を密に共有し、より良い支援が出来る様心掛けています。 現在はコロナ禍にて、地域行事等中止されている為参加することはできませんが、地域との交流を続けていく事で地域の方との情報も共有し、このコロナ禍を乗り切っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小高い山の上にあり、春は梅や桜の木、眼下には小矢部川や立山を見ることができる。津波や地滑りの心配が少ないこの地は、初代管理者が思いを込めて探した土地である。地域からは除雪や防災などの協力や、野菜のおすそ分けがあり、近くの小学校との交流もある。共有スペースや事務所には焼酎瓶に浮かぶ月下美人が飾られ、利用者と職員が協力して花を摘み取る作業のエピソードが聞かれた。利用者家族から頂いた月下美人を大切に育てる精神は、「めくばり」「気づばり」「思いやり」の理念と同様に開設時から継承されている。それは利用者や家族は勿論、職員間でも実践され、誰が来ても居心地の良い施設となっている。また、伏木病院の訪問看護と連携しており医療面も安心である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識した支援を共有できるよう、目につく場所に掲示してある。 職員の名札の裏にも掲載し、朝礼時に唱和することで運営理念を意識するように心掛けている。	常に理念を意識できる環境にあり、職員は利用者に対し、より優しく接することができるよう日々話し合っており、利用者からも喜ばれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域行事などが中止になり参加できないが、毎月自治会の回覧板に「かたかごだより」を回覧してもらい情報の発信に努めている。	公民館が近くにあるため、コロナ禍前は自治会行事には可能な限り参加していた。地域住民とは、除雪のお手伝いや、野菜の差し入れなど関係の構築が出来ており、地域ぐるみの防火訓練にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため行えないため、毎月資料や「かたかごだより」を郵送することで、認知症の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回奇数月に運営推進会議を開催していたがコロナ禍で行えなかったため、資料や「かたかごだより」を送付し、令和2年9月には質問書を同封し、委員の方の意見を聞かせて頂いた。	毎回高岡市に報告し、意見をまとめ返事をフィードバックしている。また、毎月のかたかご便りを同封し施設の様子がわかるようにしている。再開については高岡市と協議する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類は郵送せず持参するようにしている。 分からないことや曖昧なことは市役所の担当者に相談している。 コロナ禍で思うように研修会等に参加できないが、web開催の研修資料の抜粋を回覧するなど情報の共有に努めている。	運営推進会議の書類を届ける時や、介護保険関係の手続きをしに行く際、利用者が小規模多機能型居宅介護からグループホームへ移行した時の請求の仕方に関して相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に1回以上身体拘束の施設内研修を行っている。 やむをえず身体拘束をしなければならない時のために「やむをえない身体拘束に関する同意書」等の手続き書類の準備がしてある。	勉強会や日頃から適切ケアについて学ぶ機会があるので、つい不適切な言動を発してしまった際も、職員自身が発した言動に気づくことができていた。そのことは管理者も職員のケアの質の向上に繋がっていると実感している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを整え、職員の理解を深めるため定期的に施設内研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や権利擁護に関する施設内研修を行い、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、理解・納得を得た上で同意の捺印を得ている。 入居者様の状態変化等により契約解除に至る場合は、その後の方針を相談し支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のコロナ禍の中、面会もままならないため、来設や電話の際などにできるだけ家族様とコミュニケーションをとるようにし、話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。 施設内に苦情相談窓口を設けている。	家族からは様々な要望が出ているが、今は利用者をコロナ感染から守ることを第一に協力いただいている。家族からの要望や対応については、運営推進会議やかたかご便り等での公表を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング・朝礼時において職員は自由に意見や要望を話すことができる。 必要に応じ、個別に聞く機会を設けている。 自己評価を行い、職員の意見や要望を業務に反映させている。	年1回社長との面接があり、職員は気兼ねなく意見を伝えることができる。職員希望で嚙下体操用のマスクシールドの購入の実績があり、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を持ち、職場環境・条件等の整備に努め、一人ひとりが役割責任や向上心を持ち、働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在のコロナ禍の中、外部研修に行くことが難しいため、施設内研修の充実を図るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のコロナ禍の中、同業者の交流も差し控えている。状況が許すようになれば、積極的に研修などに参加し、同業者との交流を図りサービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを何度か実施し、本人の思いや不安などを十分に把握し、安心して入居いただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまで何度か聞き取りの機会を持ち、相談・要望・思いなどを把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員・本人・家族で話し合い、必要な支援を検討している。 必要に応じて、訪問看護の看護師や主治医の助言を仰ぐ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは自宅での生活の延長上にあり、出来る限り自宅での生活と同じように過ごしていただくこと、職員はさりげなく支援する立場であることを意識できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時、電話連絡、メールなどにより家族の情報を共有し家族の協力を得られるよう、より良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在のコロナ禍の中、外出・外食は、家族の了解のもと控えているが、馴染みの関係が途絶えることの無いよう、ガラス越しの面会やマスク着用の玄関での数分の面会など工夫している。	家族が補充品を持参した際に、感染対策をして事務所で面会したり、なじみの個人の床屋に行っている。おやつに利用者の自宅隣の和菓子屋のお菓子を購入し、利用者には懐かしいと喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性に配慮しながら、入居者様が孤立することのないよう配慮し、支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約が終了した場合でも、入居者様、家族様の連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや要望・願いを、職員・介護支援専門員が聞き取り、その要望・願いに沿えるようその都度、介護支援専門員と職員が考え話し合い、支援できるよう努めている。	カンファレンスやサービス担当者会議は、全員の意見を聞く機会を設け、2回に分けて実施している。職員は利用者とのかかわりから感じとったことや気づきを記録し、得た情報は主治医、家族と共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントし、入居後も本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録・申し送りノート・口頭での申し送りを活用し、日々の変化を共有しながら、常に入居者様一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在のコロナ禍の中、本人・家族が同席しての担当者会議を行うことが難しいため、個々に聞き取りをし、実施記録作成やモニタリングの記録を行い入居者様の現状に即した介護計画の作成に努めている。	毎朝申し送りの時間を設け、利用者のことについて共有している。また、現在はコロナ禍の中担当者会議を開催できずにいる状況から、家族には、面会時や電話で要望を聞き取りし介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・申し送りノート・口頭での申し送りを活用し、日々の変化を共有しながら、常に入居者様一人ひとりの現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならないように個別支援の重要性を認識しながら、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・各居宅介護支援事業所と連携している。 地域の商店・理髪店等と連携をはかり、入居者様の暮らしを支えられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様との連携を密にとり、入居者様が必要な医療を受けられるように支援している。 必要に応じて日々の様子(体重の変化、毎日の血圧)などの情報を医師に提供している(つながりノート、血圧表、当日の状況)。	もともとのかかりつけ医を基本とし、家族同行で受診しており、場合により職員が同行する場合もある。主治医とはつながりノートや書面で、情報のやり取りをしている。また、訪問診療を利用している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の変化・体調不良の把握に留意し、日々の様子を毎週金曜日の訪問看護の日に訪問看護師に相談し、情報交換を行っている(看護記録)。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在のコロナ禍の中で、面会に行くことができないため、病棟看護師・主治医・地域連携室・家族様と密に連絡を取り、情報交換に努めている。 退院時カンファレンスの参加も現在は難しいので、看護サマリーを出してもらおう。分からないことがあれば、連絡を取り情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化された場合の指針を説明している。 入居者様の状態に応じて主治医・地域連携室・家族様と相談を重ねて対応している。	看取りは行わない事業所であることを入居契約の際に説明している。近隣の伏木病院の訪問看護と連携しており、重度化対応は、伏木病院と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が急変・事故発生時に速やかに対応できるように研修を行っている。 救急搬送時のための個人ファイルが、ホール台所に常時準備してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルが作成しており、速やかな対応が出来るように年2回避難訓練を行っている。 現在はコロナ禍のため、消防署に報告をし自衛消防訓練を行っている。地域の防災訓練にもこの状況が許せば参加する。職員が全員対応できるよう体制を整えている。非常用の水・食料の備蓄がある。	マニュアルは整備されており、年に2回の避難訓練が実施されている。事業所の建つ場所は、ハザードマップ上では洪水や地滑りの心配は少ないが、他地区での災害の影響で陸の孤島となる可能性も考えられる。非常用としては食料が1日分、水は2L18本分備蓄している。	近年の異常気象により、想定外の災害に巻き込まれる可能性があることから、備蓄の食料や水の量の見直し、備蓄品等の内容や量、消費期限、保管場所等全職員との情報共有に期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、入浴・食事・排泄ケアのさい、職員の声掛けや見守り等において自尊心・プライバシーに配慮できるよう対応している。個人の居室に入るときは、利用者様に何をするために入るのか説明し、了解を得て入るようにしている。	職員全員が、居室への入室時は必ず声をかけ、目的を告げ了解を得てから入室している。職員は、介助のためにトイレに入る際も声かけをしている。排泄が自立している利用者には、排便確認のため流さないでほしいと声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と職員との信頼関係を日々の生活の中で育み、個別対応を常に意識しながら、思いの表出しやすい関係を築けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いや要望・願いを、その都度職員が考え、話し合い、支援できるよう努めている。利用者様個人で嗜好品を購入され、希望時に提供している。居室に個人のテレビを設置し、観たい番組を見られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・日中において、整髪・整容・髭剃り・爪切りなど、見守りながら支援している。その日に着られる洋服なども、選ぶことが出来るよう職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のコロナ禍の状況の中で、調理・盛り付け・片付け等困難なため、楽しく食事が出来るよう季節感の味わえる食事を心掛けている。今は、おしぼりの準備や食器拭きなどお手伝いして頂いている。	地元の和菓子や、いただいた栗で栗ご飯を作るなど地域とのつながりがあり、手作りお節や行事食などで季節を感じている。自分の好きなお菓子を食べる、好きなケーキを選ぶといった楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い活用している。入居者様一人ひとりの状態を共有しながら、その人に合った量をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて自立した支援ができるよう努めている。就寝前は、入れ歯を洗浄液につけ清潔を保つよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできるだけ使用しないで済むように、排泄記録を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立した支援ができるように努めている。	毎日、オリジナルの排泄チェック表を活用し、個々に支援している。便秘には入浴時にマッサージをし、便が緩い場合は、利用者が昔から体調を崩したときに飲んでいたという葛湯を提供している。また、訪問看護とも連携している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、体調の変化、活動量等を考慮し、訪問看護師とも相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を活用し、個別入浴や一人ひとりの希望に合わせて、くつろいだ入浴ができるよう支援している。体調が悪く入浴できない場合は清拭を行っている。シャンプー等は、それぞれのお好みのものを使用して頂いている。	基本的には午前中週2回以上の入浴とし、体調に応じて対応し、本人に意思確認している。また、スキンケアは居室で行っている。シャワー浴の場合は足浴も同時に行っている。日替わりの入浴剤は入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを把握し、状況に応じた対応を行っている。いつでも休息したい時に、居室にて休息をして頂けるように居室を適温に保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、効用、副作用等は、報告・連絡を職員が密にとり、受診記録・書面・申し送りノートを活用して行っている。申し送り時にも、口頭で伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできることや思い、要望、願いを、その都度職員同士が考え、話し合い生きがいがある生活が送れるように努めている。 チラシで作るゴミ箱を折っていただく、おしぼりを巻いていただくなどの役割分担や、ご自分のお好みのおやつやヨーグルトなどを食べて頂くなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在のコロナ禍の中、外出・外食は、家族の了解のもと控えている。 天候の良いときには、ドライブに出かけることを心掛けているが、車から眺めていただくのみで下車はしない。 情勢が許すようになれば、また外食や買い物に出かけるように努める。	コロナ禍前は、ドーナツ屋に利用者とは出かける等していた。コロナ禍の現在は、海や山、バラを観にドライブに出かけており、近所への散歩も再開する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、お金を所持していただきご自分の買い物の支払いができるよう支援している。実際にご自分のお財布に現金を持ち所持しておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があれば施設からかけたり、先方からかかってきた時には居室にて話していただいたりしている。ご自分で携帯電話を所持されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活空間を把握し、季節に合った装飾作りに取り組んでいる。ホールの利用者様が見やすい所に季節の飾り物を置いている(干支、お雛様など)。温湿度計を設置し、室温調節・衣類の調整を行っている。	広く、壁や照明など明るく落ち着いて過ごせる色合いになっている。小上りも眺めがよく、焼酎瓶に浮かぶ月下美人が飾られている。利用者目線で作品などが飾られ、利用者がゆったりくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に配慮しながら、自由にご自分のスペースを保ちながら暮らせるように支援している(テーブルの配置換えや、座席替えなど)。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物をご自宅より持参してもらい、居心地良く安心して過ごしていただけるように努めている。家族が持参された家族の写真や家族からのプレゼントがタンスの上に飾られていたり、ひ孫さんの写真帳をお持ちになられている方もおられる。	居室の入り口には表札、ベッド、タンス、空気清浄機が備え付けられ、プライバシーに配慮し暖簾が下げたある部屋もある。テレビや収納、アルバム、母の日の花、家族写真、本人の作品など思い思いに飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、やりたいこと、わかること、支援すればできることを把握し、安全にご自分の力で生活できるように支援している。安全に移動できるよう、テーブルやイスの配置に配慮している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかたかごの郷

作成日: 令和 3年 4月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (13)	備蓄の食料や水の量の見直し 備蓄品の内容や量、消費期限、保管場所等の職員 との情報共有。	最低3日分は備蓄する。 備蓄品の内容、量、消費期限が分かるように表記 する。 備蓄品の保管場所、内容を全職員に周知徹底す る。	3日分の備蓄品について、職員ミーティングで話し 合い、必要量を購入する。 備蓄品を取り揃えたら、内容・量・消費期限の一覧 表を作成し見やすい所に貼る。 全職員に保管場所・備蓄品の内容を周知徹底す る。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。